

店主の努力と全国の支援によって再生した 港のジャズ喫茶

「東日本大震災で空前の被害を受けた漁港の街、気仙沼。

津波によって押し流された地元の店が仮設の建物で営業する「紫市場商店街」を先に進むと、川原さん（マスター）が1967年に創業した（ジャズ喫茶）「ヴァンガード」がある。「当時はジャズ好きな若者が多かったから、お客さんも席が無くなるくらい入った。店も街も活気があった時代だね」

そして2011年3月11日。「私は3階で仮眠をとっていたから助かった。店や2階にいたら、今はいなかっただろうね」。建物の全壊は免れたが、自慢のJBLやピアノも浸水し使い物にならず。川原さんは店を閉じることを考えた。

しかし、窮状を知ったジャズファンたちが立ち上がり、オーディオやCDを寄贈。震災約4ヶ月後の7月18日、復興支援ライブを持って店は再会する。

丁寧に入れた本格派のコーヒーが260円。カレーセットも500円の安さ！

「私の人件費が入ってないからこの値段でやれるのよ（笑）。私は今の山中千尋や上原ひろみも大好きだけど、昔からのファンは昔のものばかり聴いている。それじゃジャズは広がらないな。」

粒立ちの良いピアノの音を聴きながら店を後にするとき、川原さんが届いたばかりのダンボールを指差した。「ほら、つい最近もレコードが寄贈されたんだよ」

安易に使われるとも感じていた「絆」という言葉が、ここでは生きてると実感し、街を離れた。」（「ジャズの教科書」 学研パブリッシング発行）

カレーを食べコーヒーを飲み、新聞を読む 至福のひと時 「ヴァンガード」の昼休み

私は昼休みは1人で、「ヴァンガード」へ行きます。食事はいつもカレー（大盛り）とコーヒーのセットです。値段は、ホットコーヒー（260円）、アイスコーヒー（320円）、カレーorスパゲッティとコーヒーのセット（500円、大盛りも同じ）です。この値段は、おそらく何十年も変わっていません。消費税が5%から8%になった時も値上がりしませんでした（もしかしたら、消費税を国庫に納めてないのかも）。私は、「コーヒーはいらないから、カレーライスだけで、240円にならないのか」と聞いたら、マスターから「ここはコーヒー屋だ」と一喝されました。

私は毎日行くので、座る席が決まっています。行かないときはマスターに、「明日は来ません」と断らないで休むと、怒られます。ここでは、朝日新聞を読みます。先人が新聞を読んでいるときは、次の日に朝日新聞を取ってくれています。私は、音痴ですが、昔はクラシック、今は歌謡曲を聞きます。ジャズはよくわかりません。ここでは、2月に1回ぐらい、日曜日の夜に、ジャズのライブがあります。チケット代は1,000円です。ジャズの生演奏に浸れます。

都会では喫茶店が無くなって、スターバックスやドトールが多くなっています。しかし、東北には結構昔ながらの喫茶店が残っています。

【昼休みはいつもここ 昔ながらのジャズ喫茶「ヴァンガード」(気仙沼市)】



【ジャズバンド“LAMP SHADE”のライブ(ヴァンガード)】

